



作成年月日：2015年3月4日
改訂年月日：2024年1月12日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称（製品名）： クルザード水アカ汚れピッチタール洗浄剤（5L/500ml）
会社名： 株式会社ヴィプロス
住所： 〒124-0006 東京都葛飾区堀切1丁目37-11
担当部門： 品質管理部
担当者（作成者）： 勘造琢二
電話番号： 03-5664-6801
FAX番号： 03-5664-6802
メールアドレス： info@vipros.jp
奨励用途及び使用上の制限： 油汚れや油膜の洗浄（自転車、バイク、納期、船舶など）

2. 危険有害性の要約

危険有害性の要約：

GHS 分類

健康に対する有害性

皮膚腐食性/刺激性： 区分 1

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性：

区分 1

皮膚感作性： 区分 1

特定標的臓器毒性（単回ばく露）：

区分 2（中枢神経系、呼吸器、肝臓）

特定標的臓器毒性（反復ばく露）：

区分 2（中枢神経系、呼吸器、肝臓）

環境有害性

水生環境有害性 短期（急性）：

区分 3

上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しない、分類できない。

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語： 危険

危険有害性情報： 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
アレルギー性皮膚炎を起こすおそれ
臓器の障害のおそれ（中枢神経系、呼吸器、肝臓）

長期にわたる、または反復ばく露による臓器の障害のおそれ
(中枢神経系、呼吸器、肝臓)
水生生物に有害

注意書き：

安全対策：

すべての安全注意（SDS等）を読み理解するまで取扱わないこと。
容器を密閉し、取扱い時にはこぼれないように注意すること。
空容器に圧力をかけないこと（破裂の恐れがあるため）
容器を溶接、加熱、穴あけまたは切断しないこと。
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
屋外または換気のよい場所でのみ使用すること。
飲み込まないこと。（飲み込むと下痢、嘔吐、気道を刺激する）
取扱い後はよく手を洗うこと。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
汚染された保護衣は作業場から出さないこと。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

応急措置：

火災の場合：消火には粉末、泡または炭酸ガス消火器を使用すること。
飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
皮膚(または髪)に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水またはシャワーで洗うこと。
汚染した衣類を再使用する場合には洗濯すること。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
皮膚刺激または発疹が生じた場合：医師の診察/手当てを受けること。
直ちに医師に連絡すること。
気分が悪い時は、医師の診察/手当てを受けること。
ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。

保管：

直射日光を避け、涼しく換気のよい場所に保管すること。
容器を密閉し、保管場所に施錠すること。
子どもの手の届かない場所に保管すること。

廃棄

内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別：

混合物

化学名または一般名：

界面活性剤を含有する混合物

別名：

Surface active agent, and additive(s)

成分名	CAS No	濃度 (%)	官報公示整理番号
非イオン系界面活性剤	非公開	1-10	非公開
無機塩類	非公開	1-10	非公開
2-アミノエタノール	141-43-5	1-5	2-308

ジエチレングリコール モノブチルエーテル	112-34-5	1-5	2-422
水軟化剤	非公開	1-5	非公開
水	7732-18-5	60-80	—

化学特性(化学式)： 特定できない

官報公示整理番号： 企業秘密なので記載できない

(化審法・安衛法)

化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 法)：

第一種指定化学物質 (2-アミノエタノール・ブチルカルビトール)

労働安全衛生法 第 57 条 表示対象物質：

2-アミノエタノール・ジエチレングリコールモノブチルエーテル

労働安全衛生法 第 57 条の 2 通知対象物質：

2-アミノエタノール・ジエチレングリコールモノブチルエーテル

4. 応急措置

吸入した場合： 空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
体を毛布等で覆い、保湿して安静を保ち、直ちに医師の手当てを受ける。
呼吸が止まっている場合及び呼吸が弱い場合は、衣服をゆるめ、呼吸気道を確保した上で人工呼吸器を行う。

皮膚（または髪）に付着した場合：

直ちに汚染された衣類をすべて脱ぎ、皮膚を多量の水と石けん水で洗う。
汚染された衣服を再使用する場合には洗濯する。

眼に入った場合： 清浄な水で数分間注意深く洗う。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外して洗うこと。その後も洗浄を続け、最低 15 分間洗浄した後、医師の手当てを受ける。

飲み込んだ場合： 無理に吐かせないで、医師の手当てを受ける。口の中が汚染されている場合は水で十分洗う。

予想される急性症状及び遅発性症状、並びに最も重要な徴候及び症状：

誤飲した場合、胃の粘膜を刺激し、吐くことがある。嘔吐中に、飲み込んだ本品が肺に吸入されると、化学性肺炎を起こし、致命的となることがある。

応急措置をする者の保護：

現在のところ有用な情報なし。

医師に対する特別な注意事項：

現在のところ有用な情報なし。

5. 火災時の措置

消火剤： 本品は不燃性であるが、火災発生時には霧状の強化剤、粉末、炭酸ガス、泡が有効である。
初期の火災には、粉末、炭酸ガス消火剤を用いる。
大規模火災の際には、泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効である。

使ってはならない消火剤：

棒状水の使用は、火災を拡大し危険な場合がある。

火災時の特有の危険有害性：

高温の金属表面等に接触したり、燃料管から漏洩した場合、発生した蒸気によって
燃焼や爆発が起きる可能性がある。

燃焼の際は、一酸化炭素、亜硫酸ガス等が生成される。

特有の消火方法： 周囲の設備等に散水して冷却する。

火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。

消火を行う者の保護：

消火作業の際は、風上から行き必ず保護具を着用し、皮膚への接触が想定される
場合は、不浸透性の保護具及び手袋を着用する。

消火作業を行う者は、空気呼吸器などの保護具を着用し、酸素欠乏および有害ガス
から身を守ること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：

作業の際は適切な保護具を着用し、漏洩した液が皮膚に付着したり、蒸気を吸入しな
いようにする。漏出した場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを
禁止する。

環境に対する注意事項：

下水道・河川等に流出し、二次災害・環境汚染を起こさないよう注意する。

漏出源を遮断し漏れを止める。少量の場合は、乾燥砂、土、おがくず、ウエス等に
吸収させて空容器に回収する。大量の場合は、盛り土で囲って流出を防止し、
安全な場所で回収する。

回収、中和、並びに封じ込め及び浄化の方法・機材：

速やかに全ての漏洩箇所の漏れを止める。

危険地域より人を退避させる。危険地域の周辺には、ロープを張り、人の立ち入り
を禁止する。

少量の場合は、土、砂、おがくず、ウエス等に吸収させ回収する。

大量の場合は、盛り土で囲って流失を止めた後、液面を泡で覆い容器に回収する。

二次災害の防止策： 漏出時は事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で速やかに関係機関に通報する。

付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策(局所排気・全体換気等)

熱、火花、炎、高温体等との接触を避けるとともにみだりに蒸気を発散させないこと。

皮膚に触れたり、眼に入る可能性がある場合は、保護具を着用する。

室内で取り扱いを行う場合は、十分な換気を行う。

換気装置を付ける。

安全取扱注意事項： ハロゲン類、強アルカリ類、酸化剤と接触しないよう注意する。

保管

安全な保管条件： 直射日光を避け、涼しく換気の良い場所に保管すること。

容器を密閉し、保管場所に施錠すること。

保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。

ハロゲン類、強アルカリ類、酸化剤と接触並びに同一場所での保管を避ける

安全な容器包装材料：

容器に圧力をかけない。圧力をかけると破損することがある。

8. ばく露防止及び保護措置

- 設備対策：** ミストが発生する場合は発生源の密閉化、または排気装置を設ける。
 取扱い場所の近くに、眼の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。
- 管理濃度：** 設定されていない(作業環境評価基準：労働省告示第26号、平成7年3月27日)
- 許容濃度：** 日本産業衛生学会 a)(2006年度版) 3ppm(ミストとして)
 ACGIHb)(2007年度版) 時間加重平均(TWA)値：設定されていない
- 保護具：**
- 呼吸器用保護具：** 通常必要ではないが、必要に応じて防毒マスク（有機ガス用）を着用する。
- 手の保護具：** 長期または繰り返し接触する場合は耐薬品性のものを着用する。
- 眼の保護具：** 飛沫が飛ぶ場合には普通眼鏡型を着用する。
- 皮膚・身体の保護具：**
 長期間にわたり取扱う場合、濡れる場合には耐薬品性の長袖作業着等を着用する。
- 適切な衛生対策：** 濡れた衣服は脱ぎ、完全に洗浄してから再使用する。

9. 物理的及び化学的性質

外観(物理的状态、形状色)	液体・無色透明
臭い	僅かな臭気
融点・凝固点	データなし
沸点、初留点と沸騰範囲	データなし
燃焼または爆発範囲の上限・下限	データなし
引火点	データなし
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	12.6±0.2 (測定条件：25℃)
溶解性	水に対する溶解性：完全溶解
n-オクタノール/水分配係数	データなし
蒸気密度	データなし
密度	1.060g/cm ³ (20℃)
揮発性	なし
流動点	-3.5℃
粒子特性	データなし

10. 安定性及び反応性

- 安定性：** 常温で暗所に貯蔵・保管された場合、安定である。
- 危険有害反応可能性：**
 強いアルカリ剤、酸化剤との接触を避ける。

避けるべき条件： 混触危険物質との接触

混触危険物質： ハロゲン類、強アルカリ類、酸化剤と接触しないよう注意する。

危険有害な分解生成物：

酸化剤と反応し、発熱する。湿気があると亜鉛、アルミニウム、スズ、鉛等の金属を腐食し、水素ガスを発生する。

その他： 現在のところ有用な情報なし。

1 1. 有害性情報

急性毒性

経口： ラット LD50 5000mg/kg 以上 c)
 $ATE_{mix} = (100 - 84) / ((3\% / 2682.000\text{mg/kg}) + (2\% / 2000.000\text{mg/kg}) + (1.5\% / 1210.0000\text{mg/kg}) + (1.5\% / 2980.00000\text{mg/kg}))$
 結果が 4143.3673909mg/kg のため、区分 5 に該当。
 対象国危険有害性区分補正処理により区分 5 から区分に該当しないに変更。
 毒性が未知の成分を 84%含有。
 毒性未知成分が 0.1%以上なので、区分に該当しないから分類できないに変更

経皮： ラット LD50 5000mg/kg 以上 c)
 $ATE_{mix} = (100 - 92.5) / (2.5\% / 1018.000\text{mg/kg})$
 計算結果が 3054mg/kg のため、区分 5 に該当。
 対象国危険有害性区分補正処理により区分 5 から区分に該当しないに変更。
 毒性が未知の成分を 92.5%含有。
 毒性未知成分が 0.1%以上なので、区分に該当しないから分類できないに変更

吸入（気体）： GHS 定義による気体ではない。

吸入（蒸気）： データ不足のため分類できない。

吸入（粉じん・ミスト）：
 データ不足のため分類できない。

皮膚腐食性/刺激性： CAS 番号；区分 1 該当物質が $\geq 1\%$ のため、区分 1 に該当。
 危険有害性情報；H314 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷

眼に対する重篤な損傷性/刺激性：
 CAS 番号；区分 1 該当物質が $\geq 1\%$ のため、区分 1 に該当。
 危険有害性情報；H318 重篤な眼の損傷)

呼吸器感作性/皮膚感作性：
 呼吸器感作性：有用な情報なし。データ不足のため分類できない。
 皮膚感作性：CAS 番号；区分 1 該当物質が $\geq 1\%$ のため、区分 1 に該当。
 危険有害性情報；H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

生殖細胞変異原性： 危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しない
 に該当。毒性が未知の成分を 97.0%含有。
 毒性未知成分を含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。

発がん性： データ不足のため分類できない。

生殖毒性： 有用な情報なし。データ不足のため分類できない。

特定標的臓器毒性(単回ばく露)：

ラットに吸入ばく露した試験により、肺に肉眼的、病理組織学的な急性変化

(詳細不明)が用量依存的(1.51~5.05mg/L)に見られたとの記述がある c)

CAS 番号：区分 2 該当物質が $\geq 1\%$ のため、区分 2(中枢神経系)に該当。

CAS 番号：区分 2 該当物質が $\geq 1\%$ のため、区分 2(呼吸器)に該当。

CAS 番号：区分 2 該当物質が $\geq 1\%$ のため、区分 2(肝臓)に該当。

危険有害性情報：H371 中枢神経系，呼吸器，肝臓の障害のおそれ

特定標的臓器毒性(反復ばく露)：

長年にわたり、あるいはそのミストのばく露を受けたヒトで肺線維症、脂肪肺炎、肺の脂肪肉芽腫が報告されている。g,h,i)

CAS 番号：区分 2 該当物質が $\geq 1\%$ のため、区分 2(呼吸器)に該当。

CAS 番号：区分 2 該当物質が $\geq 1\%$ のため、区分 2(肝臓)に該当。

CAS 番号：区分 2 該当物質が $\geq 1\%$ のため、区分 2(中枢神経系)に該当。

危険有害性情報：H373 長期にわたる、または反復ばく露による中枢神経系、呼吸器、肝臓の障害のおそれ。

誤えん有害性： データ不足のため分類できない。

1 2．環境影響情報

水生環境有害性 短期（急性）：

(毒性乗率 $\times 100 \times$ 区分 1)+(10 $\times$ 区分 2)+区分 3 が 47.0%であり、濃度限界（25%）以上のため、区分 3 に該当。

危険有害性情報：H402 水生生物に有害

水生環境有害性 長期（慢性）：

(毒性乗率 $\times 100 \times$ 区分 1)+(10 $\times$ 区分 2)+区分 3 が 5.5%であり、濃度限界（25%）

未満のため、区分に該当しないに該当。毒性が未知の成分を 88.5%含有。

毒性未知成分を含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。

生態毒性： データなし

残留性・分解性： データなし

生態蓄積性： データなし

土壌中の移動性： データなし

1 3．廃棄上の注意

残余廃棄物： 事業者は産業廃棄物を自ら処理するか、または都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

廃棄禁止

埋立処分を行う場合には、あらかじめ焼却設備を用いて焼却し、その燃えがらについては、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律執行令」に定められた基準以下であることを確認しなければならない。

燃焼する場合は、安全な場所で、かつ、燃焼または爆発によって他に危害または損害を及ぼす恐れのない方法で行うと共に、見張り人をつける。

1 4．輸送上の注意

国際規制

国連番号：	非該当
品名：	非該当
国連分類：	非該当
容器等級：	III
海洋汚染物質：	非該当
国内規制：	下記、輸送に関する国内法規制に該当するので。各法の規定に従った容器、積載方法により輸送する。
陸上：	消防法 危険物に該当しない。 労働安全衛生法表示・通知対象物；本 SDS No.3 参照
海上：	船舶安全法 非危険物
航空：	航空法 非危険物
輸送の特定の安全対策及び条件：	運搬容器及び包装の外部に、品名、数量の表示をする。 陸上輸送の場合、運搬時の積み重ね高さは3 m以下とする。 第1類及び第6類の危険物との混載を禁止する。 輸送用容器(タンカー、タンク車、タンクローリーを除く)は規制に関する別表第3の2項に定めたものを使用する。 その他関係法令の定めるところに従う。

15. 適用法令

消防法：	非危険物
労働安全衛生法：	労働安全衛生法 第57条 表示対象物質： 2-アミノエタノール・ジエチレングリコールモノブチルエーテル 労働安全衛生法 第57条の2 通知対象物質： 2-アミノエタノール・ジエチレングリコールモノブチルエーテル 有機溶剤中毒予防規則：非該当
毒物劇物取締法：	非該当
化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）：	第一種指定化学物質（2-アミノエタノール・ブチルカルビトール）
海洋汚染防止法：	非該当
下水道法：	非該当
水質汚濁防止法：	油分排出規制
廃棄物の処理及び清掃に関する法律：	産業廃棄物規則

16. その他の情報

参考文献：
 許容濃度等の勧告、日本産業衛生学会(2006)
 米国産業衛生専門家会議(ACGIH)“TLVs and BELs 2004”(2004)
 International Uniform Chemical Information Database(IUCLID)(2000)
 IARC suppl.7(1987)
 IARC Monographs Programme on the Evaluation of Carcinogenic Risk to Humans(1987)
 EC 理事会指令「67/548/EEC」の付属書 I 「危険な物質リスト」

米国産業衛生専門家会議：ACGIH documentation(2001)

IARC Monographs Programme on the Evaluation of Carcinogenic Risk to Humans(1984)

WHO/IPCS:「環境保護クライテリア(EHC)」(1982)

WHO/IPCS:「ICSC カード(International Chemical Safety Cards)」(2001)

経済産業省 SDS 作成指針

原料 SDS

JIS Z7252:2019

JIS Z7253:2019 Globally Harmonized system of classification and Labelling of chemicals (GHS)

記載内容の取扱い：

本 SDS は、JIS Z7253:2019 に準拠し、作成している。

全ての資料、文献を調査しているわけではないため、情報漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の改訂等により内容に変更が生じることがあります。

記載された情報は、情報の完全さ・正確さを保証するものではありません。

全ての化学品には未知の有害性があるため、取扱いは細心の注意が必要です。本品の適正に関する決定は、使用者の責任において行ってください。